

2020/12/24
資料3

●親子近居・同居世帯に対するウェブアンケート調査

- 高齢期の早めの住み替えを検討するニーズは増えているが、住み替えを進めるためのインセンティブが課題となっている。一方、子世帯の意向等が後押しした、親子世帯の同居・近居の住み替えの動きが多くみられる。
- 本調査では、今後の高齢期の住み替えのあり方を考えるため、親子世帯の同居・近居の実態課題等を把握するため、全国の近居・同居する親子世帯を対象に、ウェブアンケート調査を行う。

【参考】昨年度のサービス付き高齢者向け住宅に関する懇談会・意見交換会での主な意見等

- 早めの住み替え等の検討のニーズは急増している印象。
- 高齢期の住まいの住み替えは、相当のインセンティブが必要。住み替えは、これまでの人間関係を切って次の環境に移るため、相当のインセンティブが必要である。サ付の仕組みだけでは、住み替え先の人間関係の構築までの対応は難しい。
- 団塊の世代は、要介護になった際、介護保険だけでは乗り切れないことは理解している。そのため、リロケーションは、本人が「自衛」できる環境を求めるが、利便性と人間関係の両方を手に入れるためには、相当の資産がないと難しい。
- 高齢期の住み替えには、高齢者本人だけでなく、子供の目線でも判断することが重要な視点である。特に団塊ジュニア世代は、親を支援したくてもできない場合が多い。

【参考】前回のサービス付き高齢者向け住宅に関する懇談会・意見交換会での意見・指摘事項

- 「同居できないため、近居を選択する」と考え方が一方、「同居を望まないから近居を選択する」人もいる。同居と近居を分けて、その背景を含めて分析して欲しい。
- 近居にも、子の呼び寄せ、親の住み替えでもサービス付き高齢者向け住宅を受け皿にして親子近居になるタイプもある。色々なタイプ分類を意識して調査して欲しい。

●これまでの親子近居・同居に関する意向調査の概要

- 関係省庁でも親子近居・同居世帯を対象とする調査を行っているが、将来の家族との住まい方の意向・考え等についての把握が多く、近居・同居にかかる住まい方の実態を把握する調査は必ずしも多くない。
- 民間調査等では、持ち家所有層等の一部の世帯を対象とした調査が多く、近居・同居する世帯全体を対象とする調査は少ない。

■近年の関連省庁 親子近居・同居に関する調査(例)

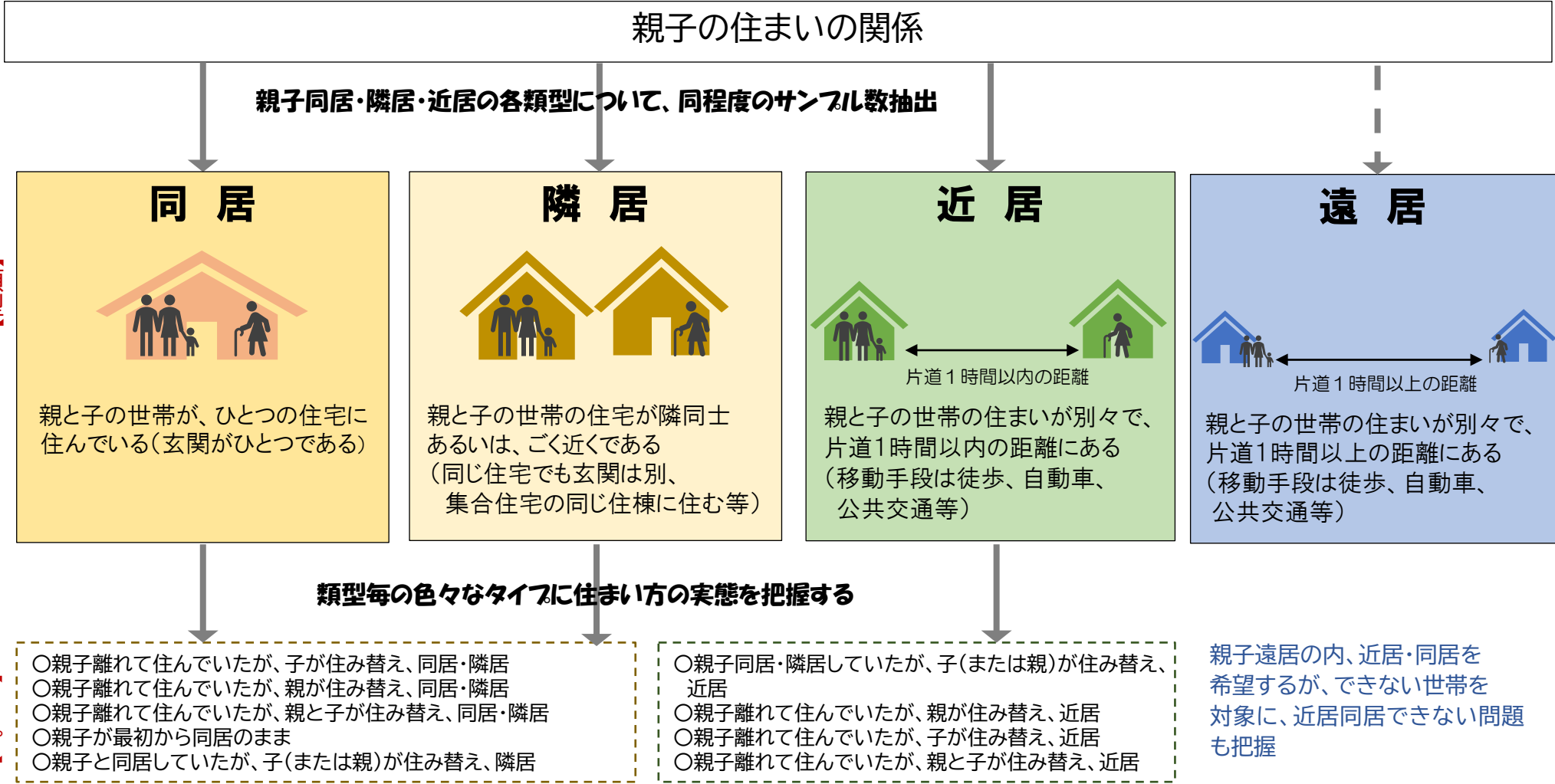
	調査名	調査項目等	調査概要
内閣府	国民生活に関する世論調査(H28年度年度)	1. 現在の生活について 2. 今後の生活について 3. 生き方, 考え方について 4. 政府に対する要望について	● 「 老後は誰とどのように暮らすのがよいか 」について、「息子(夫婦)と同居11.8%」「息子(夫婦)の近くに住む7.5%」「娘(夫婦)と同居する5.6%」「娘(夫婦)の近くに住む6.8%」「どの子(夫婦)でもよいから同居する6.0%」「どの子(夫婦)でもよいから近くに住む17.3%」
	家族と地域における子育てに関する意識調査(H25年度)	1. 結婚・家族形成についての意識 2. 家庭における出産や子育てについての意識 3. 地域での子育て支援環境づくりについての意識	● 「 理想の家族の住まい方 」について「祖父母との近居31.8%」「祖父母との同居20.6%」「子供が小学校に入学するまでの間、祖父母が育児や家事の手助けをすることが望ましい」について「とてもそう思う・ややそう思う=78.7%」
	高齢者の住宅と生活環境に関する意識調査(H30年度)	1. 基本的な生活の状況に関する事項 2. 住宅の状況に関する事項 3. 生活環境に関する事項	● 「 子供と同居や近居の意向 」について「同居したい34.8%」同居ではなく近居したい29.0%」「同居か近居のどちらかをしたい9.6%」「同居も近居もしたくない18.9%」 ● 「同居又は近居をするメリット(同居・近居希望者のみ設問)」について「ちょっとした手助けが必要な場合に安心して過ごせる81.3%」「自立した生活ができなくなった場合に世話をしてもらえる51.0%」「子や孫の世話ができる22.3%」
国土交通省	国土交通省『平成30年住生活総合調査』	1. 住宅及び居住環境の評価 2. 最近5箇年の居住状況の変化に関する事項 3. 今後の住まいの意向に関する事項 4. 家族構成別に見た住宅及び居住環境の評価と住み替え・改善意向 等	● 「 高齢期において求める子との住まい方(距離)の希望 」の経年変化を見ると「子と同居する」は総じて減少 ● 「 今後5年以内の住み替えの目的一家族等との同居・隣居・近居 」について「今後5年以内の住み替え意向のある世帯13.6%」「最近5年以内に住み替えた世帯12.0%」 ● 住み替え後の居住形態の意向等、住み替え後の課題等も把握 ● 子育て世帯(長子18歳以上、17歳以下、親単身)の居住環境評価も実施

●本ウェブアンケート調査の位置づけ・ポイント

- 本調査では、調査対象を、セーフティネット層(ひとり親やいわゆるニートを含む世帯等)から一般世帯まで、幅広く設定し、極力、親子近居・同居世帯の全体的特徴の把握に努める。
- 親子近居・同居の特徴は、全国一律でなく、地域特性により異なることが想定される。そのため、都市類型等を設定し、各調査対象エリアからのサンプルの抽出を重視する。
- 親子近居・同居世帯について幾つかのタイプに分け、近居・同居に至る経緯、住宅形態や住まい方等のメカニズムの特徴・傾向の把握も重視する。
- また、近居・同居する前・後(現在)等、時間軸をおいた近居・同居に対する考え方も把握する。ポジティブな意見だけでなく、ネガティブな意見も把握する。
- 近居・同居に伴う住宅の建設や改修リフォーム工事についても、工事内容やタイミングについても把握する。近居・同居に伴う住宅に関する困りごとについても把握する。

●調査対象(世帯属性)

- 調査対象は、親子近居・同居等する「親世帯」と「子世帯」の両方。
- 親子の住まい方「同居・隣居・近居」毎に、同程度のサンプル数を抽出する
 ※一部補足として、親子遠居する世帯で、近居・同居を希望するが、できない世帯も調査対象とする。



【類型】

【タイプ】

●調査対象(地域)

- 親子の住まい方の地域別傾向や特性の違いを分析するため、人口動態等の異なる地域(三大都市圏／地方圏)に分け、サンプルを抽出する。

■地域の設定

三大都市圏	<ul style="list-style-type: none"> ● 東京圏（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県） ● 名古屋圏（愛知県、岐阜県、三重県） ● 大阪圏（大阪府、兵庫県、京都府、奈良県）
地方圏	上記以外の都道府県

■サンプル数の割り付けイメージ案(出現数に応じて、調整中)

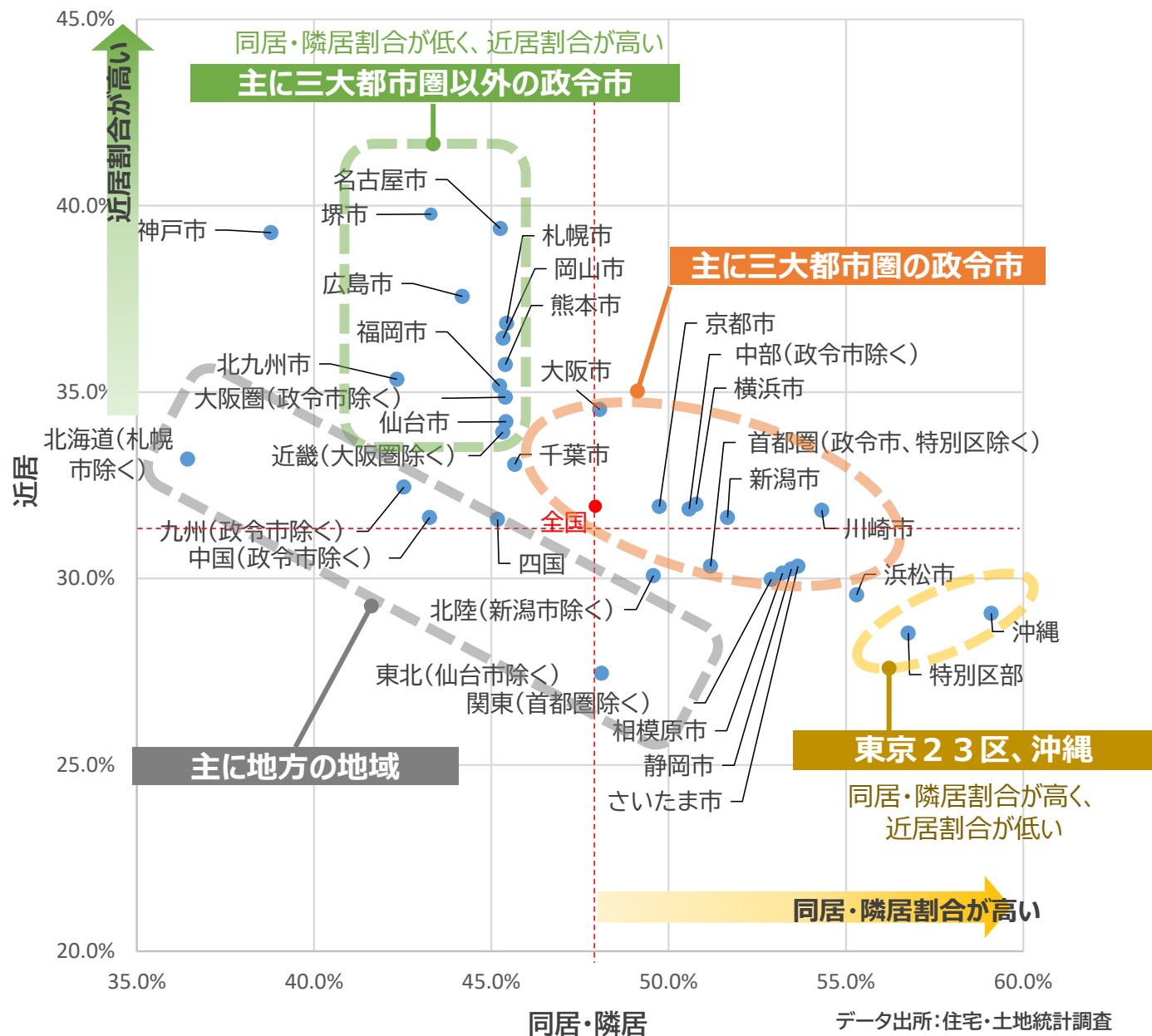
単位：サンプル数

		同居	隣居	近居	遠居	計
親世帯	三大都市圏	250	250	250	100	850
	地方圏	250	250	250	100	850
子世帯	三大都市圏	250	250	250	100	850
	地方圏	250	250	250	100	850
計		1,000	1,000	1,000	400	3,400

【参考】統計データによる親子近居・同居の地域別傾向

- 統計調査の分析からも地域により、親子近居同居の傾向が異なり、ウェブアンケート調査でも地域特性を明確にすることに努める。

同居や近居の割合別の地域分布(H30)



●調査項目案①

※具体的な調査項目案は、別添資料「親子近居・同居世帯に対するウェブアンケート調査項目案」を参照ください。

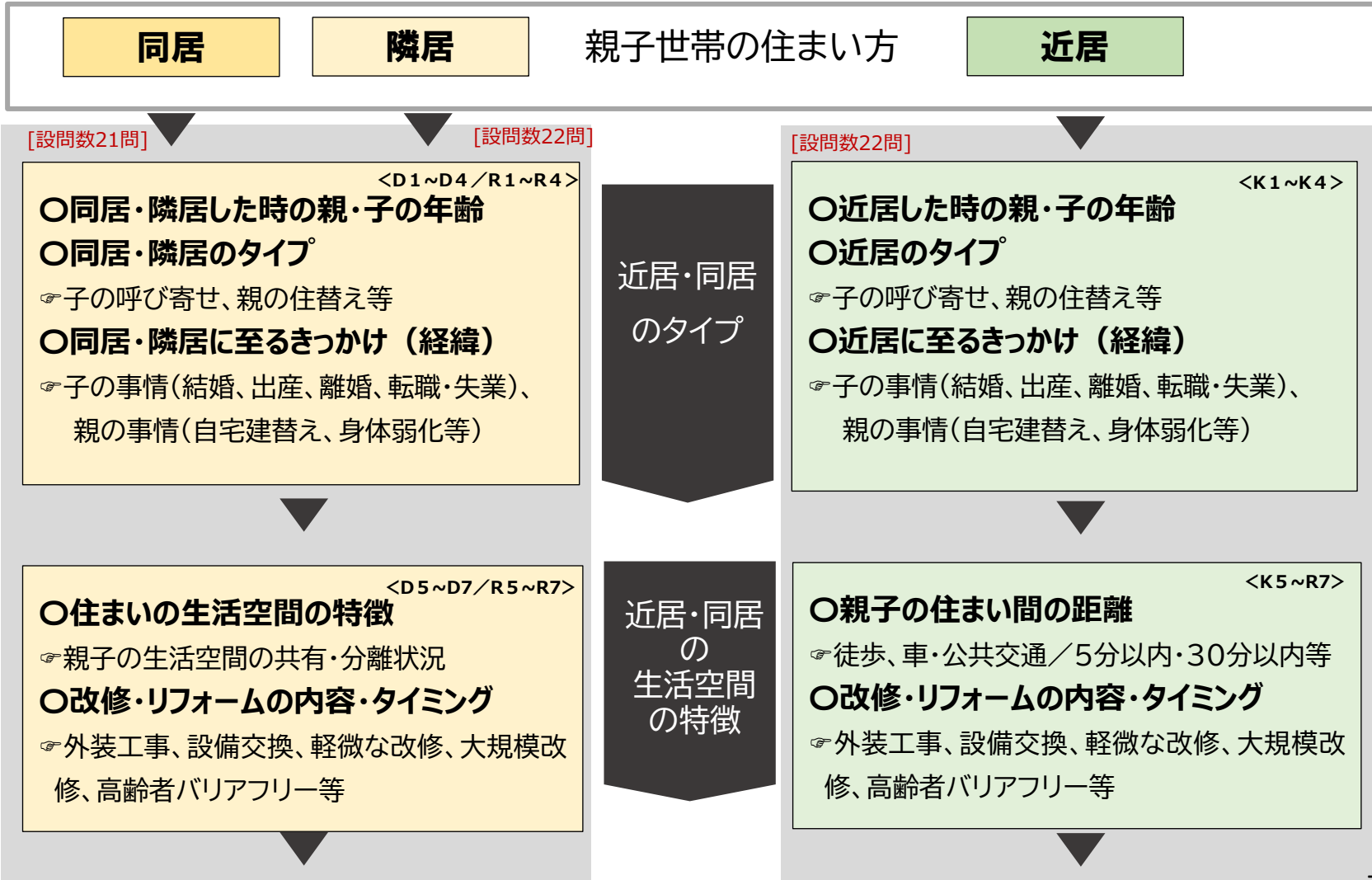
- 調査項目は、同居・隣居・近居ごとに分けて、「住まい方のタイプ」「生活空間の特徴」「メリット・問題点等」「住まい方の評価」の流れで設定する。

< > は調査項目案の設問番号

<フェイスシート>

[設問数18問]

- 現住所
- 居住形式
(同居・隣居・近居・遠居)
- 親子の関係
(夫・妻側の親等)
- 親・子の年齢
- 子の世帯構成
- 子の就業状況
- 親の世帯構成
- 世帯年収(親子世帯)
- 住まいの種類



同居

隣居

親子世帯の住まい方

近居

[設問数21問]

[設問数22問]

[設問数22問]

< > は調査項目案の設問番号

従前・従後の評価の比較

○当初の同居・隣居の考え <D8~D14/R8~R15>

- ☞同居・隣居の住まい方は、積極的／消極的か
- (隣居に対して)同居しなかった理由
- 交流頻度
- 同居・隣居のメリット
 - ☞親と子のメリット／生活面、資金面等
- 同居・隣居の問題 (住宅関連)
- 同居等の際に活用した支援制度 (住宅関連)
- 今後の住まいの予定
 - ☞住み替え予定、同居・隣居・近居の予定
- (親が住み替えの場合)従前の住まいの扱い

近居・同居
の
メリット
・問題点等

○同居・隣居してみた評価 <D15~D21/R16~R22>

- ☞満足・不満足の評価
- 満足の理由・不満足の理由
- 現在の住まいで重視した内容
 - ☞「親と子の住まいの距離の近さ」以外の内容
- 現在の住まい方の評価
 - ☞「子育てしやすさ」「高齢者の生活しやすさ」の評価

近居・同居
の評価等

○当初の近居の考え <K8~K15>

- ☞近居の住まい方は、積極的／消極的か
- 同居しなかった理由
- 交流頻度
- 近居のメリット
 - ☞親と子のメリット／生活面、資金面等
- 近居の問題 (住宅関連)
- 近居の際に活用した支援制度 (住宅関連)
- 今後の住まいの予定
 - ☞住み替え予定、同居・隣居・近居の予定
- (親が住み替えの場合)従前の住まいの扱い

○近居してみた評価 <K16~K22>

- ☞満足・不満足の評価
- 満足の理由・不満足の理由
- 住まいで重視した内容
 - ☞「親と子の住まいの距離の近さ」以外の内容
- 現在の住まい方の評価
 - ☞「子育てしやすさ」「高齢者の生活しやすさ」の評価

↑ 近居・同居に関係なく全ての世帯に住まい方の評価を聞く。↑

●調査項目案②

- 親子遠居の内、近居同居を希望するが、できない世帯も対象に、近居同居 できない理由・問題も把握する。

親子世帯の住まい方

遠居

< > は調査項目案の設問番号

[設問数7問]

<E1~E7>

○希望する親子近居・同居のタイプ

☞ 子の呼び寄せ、親の住替え等

○（住み替える場合）希望する住まいの種類

○親子近居同居に求めるメリット

○親子近居同居できない理由・問題点

☞ 住宅の関係、生活環境の関係、世帯関係等

○近居の際に活用した支援制度（住宅関連）

○現在の住まい方の評価

☞ 「子育てしやすさ」「高齢者の生活しやすさ」の評価

●今後のスケジュール(予定)

- 本日ご意見やアドバイスをいただいた内容を踏まえ、アンケート調査項目を精査し、年明けに発出する予定です。
- また本調査の結果については、次回以降の懇談会等にて報告させていただくことを予定しています。

2021年	1月上・中旬	アンケート調査項目の精査
2021年	1月中・下旬	アンケート調査発出
	2月上旬	アンケート調査回収
	2月中・下旬	調査結果分析・クロス集計
	3月中旬	報告書作成